

図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館



目 次

図書館の現状と未来の図書館への私の理想 ---- 1	コーヒーを楽しむように ----- 6
本が好きだ ----- 3	三葛館とわたし ----- 6
本のある生活 ----- 4	MIKAZURA NOW! ----- 7
先人の智慧なる図書から己を培う ----- 5	三葛館の地域貢献 ----- 7
憩いの場 ----- 5	平成 21 年度三葛館活動記録 ----- 8

図書館の現状と未来の図書館への私の理想

医学部 生理学第二教室 教授・図書館長 前 田 正 信

まだまだ寒い日が続いておりますが、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。私が図書館長を拝命いたしまして、1年弱が過ぎました。この間に図書館委員会等での議論を踏まえ図書館長として行ったこと、そして未来の図書館はどうあるべきかについての私の理想を述べさせていただきます。

先ず、図書館長として行ったことを述べさせていただきますが、現在の図書館の状況を大きく改善するにはそれに伴う予算措置が必要です。しかしながら、図書館長や図書館委員会にはその権限がありません。このため、現行の予算内での改革にすぎないことを先ずご理解いただきたいと思ます。

第1に行ったことは、図書館委員会（紀三井寺館・三葛館の両方にまたがる図書館全体のあり方を議論する委員会）、医学部図書委員会（主に紀三井寺館の図書購入等について議論する委員会）、保健看護学部図書委員会（主に三葛館の図書購入等について議論する委員会）の3委員会を合同で三葛キャンパスにて行い、委員会開会の前に三葛館の見学を行ったことです。これによって委員全員に三葛館の現状を再認識していただきました。医学部教員の中には「三葛館へは行ったこともないし、医学部とは関係がないのでは」と思う方もいますが、これは間違っています。三葛キャンパスでは、保健看護学部の学生・教員はもとより、医学部1年生、教養・医学教育大講座の教員が勉学に励んでいます。三葛館も、

医学部学生・教員が利用する図書館です。同様に、紀三井寺キャンパスには附属病院があり、多くの看護師が働き、保健看護学部の学生も実習をしています。委員全員が、当たり前のことですが、紀三井寺館・三葛館の両館が大切であり両館の発展を考えないといけないことを再認識したと思います。

第2に行ったことは、本学の図書館の問題点を洗い出し、その解決策を考えたことです。これは、「本学の図書館の問題点および解決案について」とする提言としてまとめ、理事長、理事会、教育研究審議会、両学部教授会に報告しました。三葛館に関係することでは、正職員の数が不足していること、三葛館の面積が狭く閲覧席座席数の不足をきたし毎年増える図書・雑誌の保管場所を確保すること等の問題点があげられます。抜本的な解決法は、三葛キャンパスに新しい図書館棟を建設し正職員の数を増やすこととして提言しました。しかし、法人化した大学の予算には限りがあることもよく理解しており、すぐに新しい図書館棟ができるわけでもありません。今後ねばり強く毎年訴えていくべきだと思います。

第3に行ったことは、図書館に、初代学長の書、解體新書等の江戸時代の医学書（複製本）、絵画等の美術作品を展示したことです。元々図書館が所蔵していたものが多く、お金はほとんどかかっていません。学生が本を読んでいるのを休めふと気がつく「美術館にいるようだ」と感じたり、「図書館の中に美術館があり、美術館の中に図書が置いてある」雰囲気になればと思っています。まだ鑑賞しておられない先生・学生は、美術作品を鑑賞していただければ幸いです。これは、スペースの関係上紀三井寺館で試みに行っていますが、三葛館でも行いたいと思っています。

次に、未来の図書館はどうあるべきかについて考えてみたいと思います。未来の図書館は学術情報センターとして飛躍し、最先端の情報拠点として生まれ変わるべきだとする理想を持っています。医学・保健看護学の最先端情報は、もはや Journal や図書からのみ得られるわけではありません。ビデオ、CD、DVD、インターネット等の様々なメディアを通して最先端情報が入ってきます。それらを総合的に集める情報拠点のセンターを考えています。そして、学生に対しそれらの情報処理教育をその学術情報センターが担っていくべきだと思います。既に公立医科大学・医学部8大学の内5大学（この中には医学部看護学科も含まれる）が、図書館を「学術情報センター」などの名前に変更し、従来の図書館機能に情報処理機能を合わせ、新しく生まれかわっています。例えば、福島県立医科大学では「附属学術情報センター」の名前で、図書館、展示館、情報教育及び情報ネットワークの機能を統合し設置しています。このように「学術情報センター」の名前を使う場合、①図書館、②博物館（展示館）、③情報教育及び情報ネットワークの機能の3つが本来的には必要と言われています。私が過ごした米国の大学では、図書館および大学の入り口のホールに、昔の血圧計や初期の心電計等が展示してあり、研究に疲れた時はそれをふらりと見ながら楽しんだものです。そして米国の大学図書館は24時間開放されていました。本学の図書館が「総合学術情報センター」に生まれ変わり、そこにはパソコンが100台程度用意してあり、視覚的聴覚的にもメディアを使った勉強ができる。学生が勉学に疲れた時に博物館に入ったら、華岡青洲の偉業が展示してあり、青洲の心に触れまた勉学に熱が入ってくる。そして、24時間使うことができる。このような理想を図書館長として思いめぐらしています。

本が好きだ

医学部 教養・医学教育大講座（生物学） 教授 小 山 一

小さいころから、ともかく読書が好きだった。テレビがなかったからだろうか？「三度のご飯より本好き」と小学生のころは言われていた。もちろん、マンガや絵本に毛が生えた類の本だったのだろうが、同じ本を繰り返し読んでいた。自分の家の本棚はもとより友達の家の本棚にある本まですっかり読んでいた気がする。そのころは（50年前）今ほど本は出てなかったのだから。小学校の図書室にある本を端から全部読もうと決心したのを覚えている（むろん、できなかった）。

「三つ子の魂百まで」という言葉通り、高校、大学時代になっても乱読は続いた。勉強に関する本は最低限しか読まなかったが、それでも宇宙とか生物、微生物関係の本はほとんど手当たり次第読んでいた。大学に入ったのが日本での分子生物学の勃興期にあたり、日本語になっている分子生物関係の本は全部読んだ。勉強のためでなく、まず、面白かった。受験生時代に受験関係の本ばかりを勉強させられていたので、その反動だったかも知れないが；好きな分野の最新の知識を知る楽しさに馬鹿みたいに一生懸命読んでしまった。しかし、本代には困った。大学の図書館の利用は新入生には、ちょっと敷居が高かった。

それでもやがて友達に誘われて、定期試験の時には大学の図書館で勉強するようになった。だが、不思議なもので、勉強しようとする試験とは関係のない他の本が目について、ついつい読んでしまう。読み始めると面白くてやめられない。試験は落第しない程度の成績しかずっと取れなかった。図書館で勉強したためである。しかし、そんなこんなで一度、図書館に出入りするようになると、しょっちゅう行くようになり、大学の図書館には非常に世話になった。本を買うお金を節約するためだった。変な図書館利用法もした；図書館の職員の人とも顔見知りになった時、図書館が購入した漱石全集などの空き箱（立派な装丁のケースがなんと購入直後に捨てられてた！）をセットで貰い下宿の本棚に空き箱セットを幾つも飾ったこともあった。訪ねてきた友達がその本棚をみて、私が文学書や哲学書を全集で揃えていると信じてクラスに吹聴し、クラスでの私の人物評価がいきよに跳ね上がった。理学部学生でありながら文学や哲学にもお金をかけているのだから。懐かしい思い出だ；もちろん直ぐに馬脚があらわれ、私が軽蔑されたのは当然としてクラスに吹聴してくれた友人まで「人を見る目がない」とクラスでの信用を失墜した。大学時代はこの手のいたずらを仲間で競い合っていた。思い出すと恥ずかしくなるが、あの当時の仲間はみんな懐かしい。

三葛館に出入りするようになって嬉しかったのは、多様な本が沢山あることだ。紀三井寺館は専門書こそ揃えているが、どうもゆとりがない。その点、三葛館は、看護という領域が病者の生活支援を基本にするためか、人間や人生についてのあらゆる領域が（文学作品に至るまで）含めてあるのがよい。私のお勧めは司馬遼太郎と河合隼雄。目下の興味としてはフィクションよりはノンフィクションが好きだ。本当の話は作り話よりずっと面白い。歴史や先人の伝記などはみんな面白く、かつ、人生の思わぬところで役立つ。今も、よく読む。

私の三葛館に対しての夢、空想はDVDを使ったコンサートやオペラを企画してはどうだろう。みんなで一緒に楽しみたい；三葛館のアットホームな雰囲気を生かして。鑑賞前後にワインやチーズがつく

ともっと良い。また、先生方のお仕事紹介の集いなんかも面白いかも。研究発表会といった堅苦しい話ではなく、学生と教員がひとつの話題について話し合うための話題提供をしてもらい、それについて皆でワイワイと話す；これもコーヒーとドーナツ付きで。

あんたは相変わらずホラが多いと、昔の同級生に呆れられそうだ！

本のある生活

保健看護学部 教授 鹿村 眞理子

子供の頃、身体が弱くて運動の得意でなかった私は、本が何よりの友達でした。愛読書は、『赤毛のアン』でした。赤毛のアンと聞くと児童文学書とお思いでしょうが、実は8冊のシリーズと2冊の関連した本が出版されています。孤児のアンが成長していく有名な物語です。アンが大人になって教師として働き、やがて結婚し母親となって子育てをするという女性としての人生も描かれています。訳者は村岡花子さんが有名ですが、村岡訳は内容が省略されているところがあり、完訳版は掛川恭子さんが訳しています。両方の本を読みましたが、訳す人によって文章のニュアンスが異なってくることに気づきました。そんな読書体験から、言葉の持つおもしろさに魅せられていきました。

読書によって、自分の考えを整理するヒントを得たこともありました。たとえば、看護過程の授業準備をしているときでした。理系ミステリイと評され、某国立大学の助教授でもある森博嗣さんの『幻惑の死と使途』（講談社、1997）を読み、以下のような文章に出会いました。

「人間のすべての思考、行動……、創造も破壊も、みんな名前によって始まる」犀川は答える。「ヘレン・ケラーを知っているだろう？ 三重苦の。もの心がつく以前から盲目で耳も聞こえなかった人が、何を最初に理解したと思う？ そういう人に言葉を教えるには、何が必要だろう？」 「実物に触れさせて、言葉を感じて教えたのでしょうか？」 「それ以前に、重要なことがあるんだ。それは、ものには名前がある、という概念なんだよ。すべてのものに名前がある、ということにさえ気づけば、あとは簡単なんだ。ものに名前があるということを知っている、あるいは、ものに名前をつけて認識するのは、地球上では人類だけだ」

つまり、もの（ことも含む）に名前をつけることによって、それは何なのかを認識できることになります。看護診断に当てはめると、「健康問題に名前をつける → 看護診断名 → 問題が明確になり共通認識される」ということに思い至りました。

子育ての時期は自分の時間を持つことができず、読書が唯一の気分転換でした。バッグの中には必ず文庫本を入れて持ち歩き、わずかな時間を見つけては本を読みました。このように、私の生活は本と切り離すことができません。読書によって、私の興味の世界が広がりました。現在は、勤務時間以外はすべて私の時間ですから、自由に読書ができるという贅沢な時間を過ごしています。

三葛館は、看護学関係の蔵書が充実しています。手に取って読んでみたいと思う本が身近にあるので、大変ありがたく思っています。本との新たな出会いが楽しみです。

先人の智慧なる図書から己を培う

保健看護学部 助教 中井祥子

4月からこの大学に勤めはじめて、はや一年が経とうとしています。この一年の間、何度この三葛館に通ったことでしょうか。

まず、近い！そして、適度な広さ！さらには、豊富な蔵書！ああ、なんて快適な図書空間♪看護系図書のみならず、心理、哲学、医学関連の図書も多く取りそろえられています。図書館にない図書も予算の範囲で購入していただけたり、読みたい論文を取り寄せてもらったり、図書館の活用法は自分次第で無限に広がります。また、英語の多読コーナーや、月ごとに玄関付近に展示されている「今月のオススメ図書」があるのをご存じですか。司書さんオススメの図書を一気に読める良い機会です。医療、看護系以外の図書は、学生みなさんに医療従事者としての人間力を高めるための教養を与えてくれるでしょう！ぜひ図書館に足しげく通って、自分の心に響く図書との出会いを探してみてください！

それでは、学生みなさんに私の心に響いた図書のうちの一冊をご紹介しますと思います♪それは、『自省録』（マルクス・アウレーリウス著；神谷美恵子訳、岩波書店、2007）です。「生きているうちに善き人たれ」ローマの哲人皇帝マルクスが透徹した内省の果てに紡ぎ出した言葉の数々は、今を生きる私たちの心にも響く素晴らしいものです。今や科学が発達し、便利さが増す世の中で、これほど人間について、自分という存在について、私たちは深く洞察できているのでしょうか。医療人を目指すみなさんに、ぜひ読んでいただきたいオススメの一冊です！！

憩いの場

助産学専攻科 助教 宮下ルリ子

私は小さい頃、室内よりも室外で元気よく遊ぶ子どもであったため、他人と比べると図書館とは比較的縁が薄かったように思う。もちろん時々本を読んだり、勉強することもあったが、余暇を楽しむ時間に活用するといったことは少なく、友達との待ち合わせ場所などで利用していた。図書館は、活用する時の年齢や職業などでも変わってくると思う。また、様々な利用方法もあり、最近、私にとって憩いの場になっている。

一般に、娯楽を目的としたり、学習や調べ物をするために利用するのが多いのではないだろうか。もちろん、仕事上、専門書や文献の検索で利用することが多いが、ほっと一息リラックスできる癒しの場でもある。まず図書館に行くと、新聞を読み、娯楽として読みたい本を探し、その後、仕事に必要な書籍や文献を探す。この図書館という空間の中は、自分なりに気持ちの整理ができ、リセットすることが可能な場所となる。

このようにすばらしい場である図書館を、新たな自分を発見できる場として、フル活用していきたい。

コーヒーを楽しむように

保健看護学部 助教 森 田 望

幼少期、祖母からの誕生日プレゼントは本だった。ジャンルは児童文学、伝記、童話、マナーの本など様々。今から思えば、店員に相談して見繕ってくれていたのだろう。祖母によって選りすぐられた本に対して、「また本か…」と、ややがっかりした。当時は、本から得る知識よりも食欲や物欲が勝っていた。その本の価値を知ったのは、しばらく経ってからであった。「そう言えばこんなこと書いていたよな…」と、本から得た知識が意識に上り、実践に活用する場面に出くわす。同じ本を何度も読み返していたからなのか、少しずつ本を活用できるようになった。

本の「読み方」を知ったのは短期大学の学生になってからだ。著者の意見で賛同できる部分はどこか、できない部分はどこか、その考えを支える根拠は何か。本に書いてある内容を鵜呑みにしていた私は、ある先生の言葉によって徐々に本の読み方や活用の方法がわかってきた。先生は看護学以外の本を読むこと、特に文学作品を読むことを勧めてくださった。「文学作品では人間を深くみて描写されおり、作品を通して人間の複雑で多彩な内面世界について考えるきっかけになる」と。生き方や価値観の多様性に気づくことは、看護師として人間と関わる私にとって大変有意義であった。

自分が本をどう読んだのか、仲間と意見を交わすのも有意義だ。自分の反応や思考の傾向に気づくことができるからだ。附属病院にあるコーヒーショップで教わったのだが、コーヒーはまず香りを楽しみ、味を楽しみ、最後に飲んだ感想を述べて楽しむそうだ。興味深い作品を読んだら、その感想を述べ合っ

て楽しんでみたい。

三葛館とわたし

保健看護学研究科 修士課程1年 原 政 代

こんにちは～！ 原 政代と申します。現在、職場では管理職をしながら、大学院で学んでいます。ですから、文献検索などに費やす時間には、かなりの制約があります。家で本を読もうとしても、家事や雑念がいっぱい入ってきて、なかなか集中できません。そんな時、「三葛館へ行こう」と思い立って利用すると、非常に集中でき、気づきや発想が出てきます。三葛館はいつも爽やかで、とても新鮮な場所です。困ったときは、司書さんにいろいろ教えていただいています。とても親切で爽やかな対応をしてくださいますので、癒されます。

蔵書の印象としましては、私の興味のある、児童虐待に関する本が多いこと、こどもの貧困についても新しい本が沢山入っていることなどです。三葛館で出会った、『お金より名誉のモチベーション論:「承認欲求」を刺激して人を動かす』(太田肇著, 東洋経済新報社, 2007)は、承認の欲求を満たすような人間関係づくりをしていきたいと考えている私にとって、とても興味深い本でした。

このような環境が整っている中で、精神的な支援を受けながら、学生生活を乗り越えていきたいと思っています。どうかよろしくをお願いします。

平成22年度 展示図書テーマ一覧

- 第9回「新たな一步をふみ出したあなたに」
- 第10回「めざす将来の自分像」
- 第11回「Dear Daddy: 家族のなかのお父さん」
- 第12回「日本再発見」
- 第13回「No Smoking!」
- 第14回「くじらを考える」
- 第15回「ノーベル賞に触れる」
- 第16回「うちごはん」
- 第17回「2011年 これからのあなたを考える
30冊の本」
- 第18回「恋ゴコロのメカニズム」

平成22年度保健看護学部卒業生の
表彰を行いました！

平成23年2月14日に、在学中貸出冊数上位者の表彰を行いました。大学在学中に図書館を利用し、勉学に励み、教養を深められたことに、賞賛と感謝の意を表しました。第1位の方の冊数は、過去最高の648冊を記録しました。



MIKAZURA

NOW!

平成21年度 利用統計

年間開館日	279日
入館者数	34,923人
(1日平均)	125人
貸出人数	6,685人
図書貸出冊数	17,168冊
視聴覚資料貸出件数	124点
相互利用依頼件数	567件
相互利用受付件数	1,507件
学外利用者数	847人

三葛館の蔵書2009

蔵書冊数	46,085冊
うち洋書	7,361冊
所蔵雑誌種数	819種
うち外国語	144種
年間受入図書冊数	2,685冊
うち洋書	220冊
年間受入雑誌種数	465種
うち外国語	109種
(2010/3/31現在)	

三葛館の地域貢献

三葛館の資料を必要とする方であればどなたでも、入館時に手続きをしていただくだけで、閲覧や複写サービスの利用が可能です。また、文献検索においても、学生や教員に支障のない範囲で契約データベースを使用いただけますし、利用に関する質問にも対応しています。さらに、館内でのビデオやDVDの閲覧も可能です。

多くの大学で、学外の方にも大学図書館を開放していますが、年齢や職業、住所などによる制限があったり、公共図書館や所属機関の図書館による紹介状が毎回必要な場合もあります。ほとんど無条件で利用できる三葛館のような大学図書館は珍しく、和歌山県立医科大学の地域貢献の一端を担っていると言えるでしょう。その結果、県内全域に勤務する医療職や学生の方だけでなく、他府県の方にもたくさんご利用いただいています。また、医療情報を求めて地域の方々も来館されますので、患者さまやご家族が医療情報を入手できる機会の提供にも貢献しています。

平成19年度には1,303人、平成20年度には949人、平成21年度には847人の利用がありました。ここ数年、利用が減少している要因としては、学外の方が利用できる駐車場の不足が考えられます。三葛館では、閲覧席数の不足や書架スペースの狭隘化なども喫緊の課題となっており、学生や教職員はもちろん、地域のみなさまにとっても利用しやすい施設の整備が求められています。

平成21年度（2009年度）三葛館活動記録

- 4月3日 保健看護学部新規採用教員 図書館オリエンテーション
附属病院新規採用看護職員研修 図書館オリエンテーション
- 4月6日 附属病院新規採用看護職員研修 図書館オリエンテーション
- 4月7日 保健看護学研究科 新入生オリエンテーション
- 4月9日 保健看護学部/助産学専攻科 新入生オリエンテーション
医学部 新入生オリエンテーション
- 4月10日 第1回保健看護学部図書委員会
- 4月18日 日本看護図書館協会 第1回教育・研修委員会 第19回総会（神戸市看護大学）
- 4月21日 助産学専攻科「助産研究」文献検索講義
- 5月14日 日本看護図書館協会 第2回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 6月1日 保健看護学研究科「保健看護情報統計学」文献検索講義
- 6月22日 保健看護学部3年生「保健看護研究Ⅰ」 文献検索講義
- 6月29日 保健看護学部3年生「保健看護研究Ⅰ」 文献検索講義
- 7月6日 第80回NPO法人日本医学図書館協会総会分科会（国立保健医療科学院：埼玉）
- 7月10日 株式会社リコー 図書館システムLIMEDIOセミナー（梅田センタービル：大阪）
- 7月16日 NPO法人医学中央雑誌刊行会 ユーザー会2009（新大阪ワシントンプラザ：大阪）
- 7月23日 第2回保健看護学部図書委員会
- 8月7日 日本看護図書館協会 第3回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 8月10～14日 蔵書点検
- 8月20～21日 日本看護図書館協会 第39回研究会（愛知県立総合看護専門学校）
- 9月11日 日本看護図書館協会 第4回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 9月16日 公私立大学図書館コンソーシアム(PULC) 電子ジャーナル版元説明会（大阪府立大学）
- 9月17日 第3回保健看護学部図書委員会
- 10月8日 保健看護学研究科「英語文献講読」 海外文献検索講義
- 10月21日 日本看護図書館協会 第5回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 10月30日 第95回全国図書館大会 東京大会（明治大学ほか：東京）
- 10月31日 日本看護図書館協会 第40回研究会（市原看護専門学校：千葉）
- 11月11～12日 第11回図書館総合展（パシフィコ横浜）
- 11月24～27日 図書館システムリプレイス作業
- 12月4日 日本看護図書館協会 第6回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 12月11日 保健看護学部「保健看護英語」 海外文献検索講義
- 12月18日 Elsevier ライブラリ・コネクト・ワークショップ2009（ブリーゼプラザ：大阪）
- 1月28日 日本看護図書館協会 第7回教育・研修委員会（京都府立医科大学）
- 2月25～26日 国立国会図書館 平成21年度レファレンス研修（国立国会図書館東京本館）
- 3月4日 日本看護図書館協会 第8回教育・研修委員会（大阪医科大学）

編集後記

三葛館は、コンパクトなスペースに保健看護に関わる資料がびっしりと詰まっており、学生や教職員、学外の方にたくさん利用されています。本号には、ご寄稿いただきました皆様の、本や図書館に対する思いがたくさん込められていて、三葛館にはその思いを受け止めることができる環境がより一層求められていると感じました。

いろいろなものが詰まった図書館。詰め込みすぎ解消のためにやみくもに減らすこともできません。皆様の思いや大切な資料を維持できるよう、努めていきたいと思っています。(J.S.)

~~~~~

平成23年3月31日発行  
図書館報 みかづら（第14号）  
編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館  
〒641-0011 和歌山市三葛580番地  
TEL (073) 447-2300（代表）  
(073) 446-6721（三葛館）  
FAX (073) 446-6730（三葛館）

~~~~~